



3年ぶりに厚生労働省認定社内検定 トイレ診断士講義・試験が行われました。

2023年3月10日(金)から12日(日)まで、神奈川県横浜市で厚生労働省認定社内検定トイレ診断士講義・試験が行われました。平時には毎年行われていた講義・試験ですが、コロナウイルスの感染拡大により前回2019年の秋に行われて以来開催されていませんでした。この春3年ぶりの開催となり、2級12名、1級4名が資格取得を目指して受験しました。待ちに待った講義・試験ということもあり、受験者の気合は十分。講師陣にも力が入りました。合格発表は5月初旬を予定しております。



日本水循環文化研究協会



特定非営利活動法人日本水循環文化研究協会とは…
本コラムでも取り上げられている屎尿に関する文化や国内外の水の循環をめぐる文化の発掘、普及、継承を目指して活動しています。2022年日本下水文化研究会から改組しました。



今回のコラムも前回に引き続き、総合トイレ学研究家の森田英樹さんにお話を伺いました。

糞便ポストのはなし

前回はリサイクル都市と言われた江戸の街に、なぜか犬の糞が散乱している不思議な光景を紹介しました。さて、今回は外国のお話です。もう10年以上前でしょうか、スイスを旅しました。インドア派の私にとって、スイスの雄大な山々を背景にしたハイキングが、かくも爽快なものとは想像だにしていませんでした。しかし、その爽快さとは裏腹に足元に突如あらわれる牛の糞には全く参りました。油断すると足をすぐわれ、滑りかねません。こんな所でクソまみれになる事だけは勘弁願いたいものです。牛の姿よりも、はるかに多い糞に思えました。

そんなハイキングも無事終わり、セガントリーニ美術館の前を歩いていると、奇妙な緑色のポストのようなものと出会いました。正面には犬と「おまる」の絵が描かれています。これは『犬用糞便ゴミ箱に違いない』ポストの右側面には、焦げ茶色のビニールが顔をのぞかせ

ています。恐る恐る引き出していくとサランラップ状に巻かれたビニール袋でした。袋にも犬と「おまる」の絵が描かれています。この専用袋に犬の糞を入れ、ポストに入れる段取りのようです。何とも至れり尽くせりです。しかし、この「糞便ポスト」はどのような状況を想定し設置しているものなのでしょうか?まず散歩のはじめに、ポストに立ち寄り、ビニール袋を確保し、その後散歩中の脱糞を袋詰めにし、改めてポストに入れるものなのか。あるいは、犬が脱糞した時、あたりを見渡し、ポストを探し使用する事を想定しているのか。『出物、腫れ物、所嫌わざ』といいますが、果たしてそんなにタイムリーに「糞便ポスト」に出会えるものなので



あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110

トイレ歳時記 5月

5月3日は掃除の日。
掃除技術についての研究や普及活動などを行っている一般財団法人・日本そじ協会が制定。日付は語呂合わせの「ゴミ」と「護美」から。この日には全国一斉に街そうじが実施されます。同協会では環境整備の技術力を高め、良い習慣を身につける「掃除道」の普及促進も行っています。

編集後記

今号の執筆作業をしているさなか、日本のまるで漫画のような勝利でWBCが幕を閉じました。参加国の選手はもちろん、たくさんの関係者や記者が訪れ、日本の〇〇は素晴らしいというニュースが流れました。その中にももちろん「日本の温水便座が欲しい」「日本の最も好きな部分はトイレ!」など、トイレに関するものも数多くありました。野球はもちろん、トイレも世界一だと確信しています!(セルベッチャオ中嶋)



トイレを楽しくする新聞 かわや版 KAWAYABAN

2023 初夏号
Vol.102

特集 名誉トイレ診断士

佐藤 満春さん

今回のかわや版は、本紙コラムでもおなじみの名誉トイレ診断士、佐藤満春さんの並々ならぬトイレ愛やその活動についてご紹介します。

— そもそもトイレに興味を持つようになったきっかけは何だったのでしょうか?

子供のころからおなかが弱くて、よくトイレに籠っていたんです。人見知りで友達も少なかったので自然とトイレにいる時間が長くなっていました。芸人になってからも大部屋の楽屋よりもトイレにいる方が落ち着くということもありました。

— そんな佐藤さんが本格的にトイレ好きに目覚める出来事があったということですが。

2002年にNHKのプロジェクトXでウォシュレットの開発秘話が放送された時ですね。僕の大好きなトイレという空間にあるウォシュレットが世に出るまでに、こんな苦労やストーリーがあったのかと感動して、翌日にはTOTOのショールームに足を運んでいました。それからトイレのメカニック的なことにハマりだしていました。

— 弊社アメニティも佐藤さんと一緒にさまざまなトイレの取り組みをさせていただいているが、出会いはどういったきっかけだったのでしょうか?

僕がテレビでトイレの話をしているところをアメニティの社員の方が見てくださっていて、それを聞いた現社長の山戸さんが「トイレにやたらと詳しい芸人がいるらしい」ということで、ちょうど



— 伝えるという意味では、「小学生男子が学校でトイレに行けない問題」を解決したいと常々おっしゃっていますね。

排せつは衣食住と同じくらい大切なことだと思っています。子どもの頃にネガティブな印象を受けると一生ひきずってしまうイメージがありますので、小さい頃からトイレや排せつに関して正しい知識と情報、明るいイメージを伝えていくのは大人の役割だと思っています。音楽の力でトイレに親しんでもらいたいと思い、サトミツ&ザ・トイレツツというバンドを結成して、小学校でライブ活動をしたりしています。トイレはタブー視されてしまうことが多いですし、問題はまだまだ山積みです。大したことはできませんが少しづつ、自分にできるアクションをしていこうと思っています。



トイレクリーンマイスター研修の様子

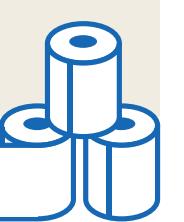


サトミツ&ザ・トイレツツ



佐藤満春さん
お笑いコンビどきどきキャンプの片割れ。トイレ大好き芸人として日本テレビの「有吉ゼミ」や「スッキリ」などのテレビ番組に出演、清掃術などを指南している。また、ニッポン放送の「オーデリーのオールナイトニッポン」や日本テレビ「ヒルナンデス」などで放送作家としても活躍。名誉トイレ診断士、トイレクリーンマイスター、清掃能力検定士などの資格を持つ。日本トイレ協会会員。

佐藤さんのトイレに関する活動



トイレ診断士の廁所のトイレモデル

アメニティがネーミングライツをしている「渋谷区役所前トイレ診断士の廁所」「新横浜駅前トイレ診断士の廁所」では佐藤さんがモデルを務める看板が掲げられています。



レギュラーラジオ番組「佐藤満春in休憩室」

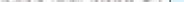
ラジオ日本で毎週土曜日深夜3:30から4:00まで放送しています。トイレの最新ニュースを紹介したり、読者からのトイレに関する質問に答えたり、トイレに関することだけを放送している「トイレ道を極めようとする求道者たちの集い」。アメニティのトイレ診断士もゲストで出演させてもらっています。

トイレ診断士もゲスト出演しています



サトミツ&ザ・トイレッツ

元くるりの森信行さん、GOMES THE HITMANの山田稔明さん、キンモクセイの伊藤俊吾さんと佐々木良さん、元ゲントウキの伊藤健太さんと佐藤満春さんで2015年に結成したトイレバンド。2017年11月10日(いいトイレの日)に「ホワイトアルバム」でメジャーデビュー。本物のミュージシャンが、いたって真面目にトイレの諸問題を歌で解決しようと試みるバンドです。「明日トイレに行こう」「答えはトイレの中」など、トイレに真正面から向き合う名曲揃いです。「日本のトイレからこんにちは」は日本トイレ協会、グッドトイレ推進運動公式テーマソングになりました。子供たちにも歌でトイレに良いイメージを持ってもらいたいと小学校や幼稚園でもライブ活動を行っています。



トイレ関連の書籍を出版

- ◎芸能界No.1 トイレマニア佐藤満春のトイレ学
- ◎恥ずかしがらずに便の話をしよう
- ◎たのしくて、う~んとタメになる! せかいのトイレ
- ◎トイレの輪 ~トイレの話、聞かせてください~
- ◎どきどきキャンプ・佐藤満春の感動の掃除術

最新書籍

スターにはなれませんでしたが

2023年2月17日発売 KADOKAWA
放送作家、芸人、ラジオパーソナリティ、トイレや掃除の専門家として幅広く活躍する佐藤満春さんの自叙伝的エッセイ。



最後に…

「未来の子どもたちのためにトイレの話にフタをせず、水に流さず、エンタテイメントを通してどんどん発信していきたい」と語る佐藤満春さん。これからもトイレの伝道師として世の中にトイレの大切さや楽しさ、奥深さを広めていってほしいと思います。



『佐藤満春in休憩室』10周年を祝う。
佐藤満春×宮川賢×山戸伸孝



トイレ未来予想図

かわや版100号を記念して、トイレの各分野でご活躍されている専門家の方それぞれが描く「トイレの未来予想図」を連載でご紹介しています。連載第3回目の今回は、トイレ診断士1級の山戸伸孝さんに、トイメンテナンスの未来についてお話を伺いました。



トイレは快・不快の二択

衣食住には個人の趣味嗜好があります。例えば食であれば、「私は和食より洋食が好き」というような趣味嗜好です。しかしトイレには趣味嗜好ではなく、「快適か?」「不快か?」の二択しかありません。私は仕事柄トイレの研修を行う事があります。その際、ご参加の皆さんに、「快適なトイレと不快なトイレ」、2つ並んでいたらどちらを使いますか?という質問をしています。この質問をすると、100%の皆さんが、「快適なトイレが良い」と答えます。同じ質問を中国、韓国、台湾、ヨーロッパ、アフリカの方にした所、全ての皆さんが「快適なトイレが良い」と答えます。



トイレは集客の要

好況であっても不景気であっても関係なく、「快適なトイレ」と「不快なトイレ」が並んでいたら、皆、快適なトイレを使うのです。しかしトイレは毎日劣化します。トイレのメンテナンスはこの劣化と戦いです。常に清潔であることを求めなければいけません。その上で大事な事は、

快適トイレのために重要なこと

- ・汚ないこと
- ・汚れてもすぐ落とせること
- ・汚れやニオイの状況を常に把握していること
- ・状況を把握していること



未来へつづくトイメンテナンスへ

汚れないこと

「汚ないこと」は、衛生陶器メーカーの釉薬改善、洗剤メーカーの予防薬剤開発などで、改善されていくものだと思います。ただし地球環境やコスト面から、最新トイレの開発の命題には「節水」というキーワードもあります。「汚れないこと」と「節水」は真逆の関係になります。節水をするという事は便器も汚れやすく、排水管も詰まりやすくなり、メンテナンスしにくくなるという事です。メンテナンスに従事する者としては、過度な節水は行わないようにしてもらいたいと思います。



汚れてもすぐに落とせること

「汚れてもすぐに落とせること」、これは意外と簡単に出来る事だと思います。例えば、小便器や大便器の排水管洗浄がしやすくする為に、清掃用の水栓を設け、日常的に水圧をかけて排水管内を洗浄するとか、家庭用の高圧洗浄機も普及してきているので、今までより多く点検口を設け、細かにメンテナンスできるようになります。これからはトイレ設計時は、そのような考え方をして頂けるとありがたいです。



状況を把握していること

また「汚れやニオイの状況を常に把握していること」は、メンテナンスにおいてとても大切なことです。数値化できるものは極力数値化して把握することです。今、色々なセンサー機器が開発されており、ネットワークにもつながる時代ですので、データログを取り、その情報を元に適切なメンテナンスを施すという事が大事になると思います。

ただ、人間の五感は機械のセンサーと比較にならないほど精巧で高感度にできています。機械によるデータはもちろん参考にしますが、最後の状況判断、処方は人間の手に委ねられています。

私たちアメニティネットワークのトイレ診断士も日々精進し、皆様のお役に立てるよう努力していきます。